



明石通信

発行責任者 明石洋子

2008年2月5日発行

▲宮崎シーガイアホテル庭園で

皆様ご無沙汰しています。年が明けてすでにひと月が過ぎてしまいましたが、新年のご挨拶がまだですので、「皆様、あけましておめでとうございます。本年もどうぞ支援のほどよろしくお願いたします。」さて、一昨年スズケン管理薬剤師を退職後、「温泉旅行三昧」の予定がすっかり狂い、法人の事務処理で、土日休日平日も夜10時まで、「あおぞら共生会」にいるような（日中は親の会等会議や行事で外出もあって）、超多忙の日々を送りました。

温泉でなくどっぷり福祉の世界に浸かっています。地域での生活を総合的に支援する「支援費制度」から、（理念は引き継いだ）「自立支援法」になって、日単位や昼と夜の場の選択、また多様な形態の組み合わせが可能など、一見利用者の自由度が高くなったような制度ですが、実際は地域に豊富な選択肢もなく、利用できるサービスの種類や量が「障害者区分」次第となっており、本人のニーズが優先されてはいません。また事業の単価引き下げなどで、区分が低いと事業が成り立たないという事業経営の苦しさが先行した感があります。

本来のサービスの主体は当事者であり、「自分の生活は自分で決める（自分で選ぶ）」ということが優先されるはず。ニーズの多い利用者の「区分は低く抑えられて、単価は引き下げられて」の現状では、収入は減少し、一方複雑な請求業務などで事務量は増大し、でも必要な地域支援はやめられない・・・と事業者として赤字経営の矛盾に悩む日々を送っています。

でも新年のご挨拶を兼ねて今回「明石通信」を出すために、昨年を振り返りましたら、楽しい思い出ばかり（感謝！）。お伝えしたい多くの出来事がありましたが、紙面の都合上いくつか限定いたします。ご紹介できなかった事でも、多くの皆様にお世話になっておりますこと、徹之ともども心より感謝いたしております。

今、課題が山積みの福祉の激動の時代、それでも「本人中心の支援」を願い、親としては（「明石通信」は親の立場で）、徹之の思いに寄り添った支援をこれからもしていきたいと思っています・・・が、「結婚がんばります。今年も結婚よろしくお願いたします」と新年の挨拶をした徹之の願いに、「今年は叶えてあげることができるかなあ〜」と不安です。本人の自己決定を「値切ることはしない！」と

飛驒高山で



誓って子育てしてきた私も、こればかりは、支援不足でスケジュールもプログラムも・・・???なのです。徹之の言うように「結婚がんばります。皆様応募(!)してください」・・・まずはそこからスタートですね。皆様応募をどうかよろしく。

さて、最初に「川崎市自閉症児者親の会」活動の現状をご紹介します。私が会長をお引き受けしてもうすぐ2年目が終わろうとしています。若い会員の増加と運動体として目覚め才能開花された役員さん方のおかげで、幼児・小学生の「バンビの会」の活動も、新設したアスペルガー&高機能自閉症の会「トライアングル・K」とお父さん方の集まり「川崎おやじの会」も、驚くほどの活発な活動をされました。更に新たに中学生以降の親たちと「就労を考える会を立ち上げよう！」と今年は計画しています。詳しくは、ホームページ「くさぶえによろこそ」にて、会の活動を紹介しておりますので、見てください。

URL : <http://kusabue.web.infoseek.co.jp/>

また、「社会福祉法人あおぞら共生会」の活動も、同封の会報「あおぞら」とあわせて、当法人のホームページにて紹介しておりますので、よろしく願いいたします。

URL : <http://www5f.biglobe.ne.jp/~aozorakyouseikai/>

宮崎シーガイアのホテルで

さて、最新の出来事から順次思い出して書くことにします。つい最近、1月27日(日)に「第28回東大阪市社会福祉事業団設立記念集会」で記念講演をしました。初の一般公開集会だったそうです。「地域で自立するために～自閉症の息子と共に」と言うテーマでお話してきました。当初は日帰りの予定でしたが、大阪に行く直前に「たたかいはいのち果てる日まで～医師中新井邦夫の愛の実践記録～」の本(復刻版)を読んでとても感動したので、講演後すぐ帰るのは惜しいと思いました。49歳でなくなられた中新井先生の熱い思いで作られた「東大阪市療育センター」をぜひ見学し、先生と共に運動された小松陽一氏はじめ事業団の方々とお話したくなりました。記念講演、シンポジウムの助言、懇親会と参加(中新井夫人とも語り合い)、初対面だった育成会会長さんのお宅に泊まり、午前2時半まで語り明かしました。翌日は中新井先生の石地藏様(聴診器を持っています)にお参りし、療育センターを訪ねました。中新井先生の「専門性は地域の中で生かされてこそ」の実践が詰まっている本に接し、徹之が障害児といわれた当時(1970年代)の日本の医療福祉の状況も知り、私が「地域の中で」と考えた原点を見た思いで、胸が熱くなりました。事業団の今後の方向性を探るために「初心に戻ろう」と、「親のニーズを汲み取る」記念集会とのこと。講師に明石洋子をお呼びくださって光栄に思いました。事業団の方々はじめ障害の種類、程度、年齢を越えて会した皆様との出会いで、人の輪がまた一回り大きくなったことを実感し、心より感謝いたします。



その前の1月24～25日は、大宮ソニックシティで、日本知的障害者福祉協会主催の「第15回地域支援セミナー」があり、全体会のシンポジストで登壇しました。「住み慣れた街で、暮らし続けるために」というテーマです。徹之が地域で生き、親亡き後も地域で暮らし続けるには何が必要かを考え、お話しました。

18年4月に「障害者自立支援法」が実施されて、すでに1年が経過しましたが、居宅系を中心とした地域支援は多くの課題を残しています。テーマは「住み慣れた街で、暮らし続けるために」ですが、「地域で生きて、そのまま地域で暮らし続ける」というための「地域支援」が実現できるのでしょうか？「施設から地域への流れ」の理念は嬉しいのですが、「地域移行」の視点は、「施設を出て地域に暮らす」という「入所施設発の支援」が中心のように思えます。実際、「雲仙コロニー」のように「入所施設を解体し、地域福祉サービスを創設」している法人もあって(嬉しいなあ～やればできる!)、このように福祉予算の地域移行こそ大歓迎です。しかし福祉予算はまだまだ入所施設内に温存され(中には入所施設を死守する経営者もいるようで)、地域の中に選択できる地域資源がそろいません。「地域支援」にこそ予算が欲しいです。地域が暮らしやすくなってこそ、「地域移行」が加速すると思うのですが・・・。

でも予算が無いからといって、「地域支援」をやめるわけにはいきません。徹之を育てながら「地域訓練会」(親の自主運営)から始まって、作業所やグループホームをつくりましたが、「欲しいサービスが無いなら自ら作ろう」と、予算(お金)が無くても、「地域の中で暮したい、働きたい」という熱い思いが先行したのです。

今、この激動の時代こそ、「福祉とは何か、支援とは何か」を真摯に考えたいものです。福祉とは人が幸せになるため、利用者も支援者も幸せになって欲しいです。すなわち「本人中心の支援」を考え、充実したやりがいのある支援ができて、皆が幸せになれるでしょう。徹之の「本人の自己決定を尊重し、尊厳(ほこり)をもって、その人らしい自立した生活を送れるよう支える」ことを、親として心に刻み、苦労も充実感にしたいと思っています。障害のある人もない人も「ありのまま存在し」、障害のある人の生活が、障害のない他の同年齢の人たちの生活に可能な限り近づいていく(選択肢が多い)ことが「ノーマライゼーション(普通の暮らし)」なので、「障害があるから、あなたは我慢しなさい」などというのは人権侵害ですね。充実した人生を誰でも送る権利を有しています。親として徹之の人生を値切ることなく、彼が自らの意思で生活できる力を育む(エンパワーメント=生きる力)ことを子育ての目標にしてきました。親はじめ支援者は本人の人権を尊重することが一番大事だと思います。

つい最近、2月の2～3日に、「本人中心の支援を確立しよう」というテーマで、「第9回



全国障害者生活支援研究セミナー」が、新宿NSビルスカイカンファレンスホール（30F）で開催されました。2日の全体会のシンポジストと3日の第5研究会「ケアホームについて」の司会進行を、私はおおせつかりました。「本人中心の支援」が実現された時、真のノーマライゼーションが定着するでしょう。「誰もが人間らしく生きることができる」、早くそのような社会になるよう、皆様と共にごがんばりましょう。

ちょっと理屈っぽくなりました。次は「講演&観光(!)旅行」の楽しい話をしましょう。今年の年頭、1月9~11日に、「北東北の旅」に行ってきました。秋田県教育委員会からの講演依頼に、今「趣味は旅行とミュージカル鑑賞！」と言っている私は、憧れの「五能線の旅」がしくて即講演をOKし、講演日以外、プライベートな旅を計画しました。ところが、観光バスも五能線の観光列車「リゾートしらかみ」も、冬の平日は連休との事。がっかりする私に、教育委員会の方が「ご案内しましょう」と言ってくださったのです。雪景色の角館（桜で有名）やなまはげの男鹿半島そして五能線の沿線をドライブ。不老不死の温泉（日本海沿いの露天風呂）や五所川原のねぶた会館など観光しました。もちろん養護学校や保育園の先生方対象の能代での講演もバッチリ!! 好評だったようで、「また講演に来てほしい」とのこと。10月に青森で講演を頼まれたので、次回は五能線を逆方向に、日本海の夕日を見ながら観光列車で秋田へと・・・楽しみにしています。



角館の雪の武家屋敷前にて



さて、19年を思い出して・・・。

昨年12月は、徹之の大好きな「そのまんま東」さんが知事をされている宮崎に行きました。徹之は「いかりや長介」「そのまんま東」という名前のゴロがいいのか、なぜか大好きで、いかりやさんが亡くなられた後は「そのまんま東」さんの名前を連発していました。数年前に、精神の作業所「こらーるたいとう」のヘルパー研修会で講師に呼ばれた時も、徹之は一言話すたびに「そのまんま東」と言っており、受講されていた皆様から「何でそのまんま東なの？」と質問されていましたね。それくらい大好きで毎日連呼していた「そのまんま東」さんが知事になられたのですから、ニュースを見て徹之は「東国原英夫知事に会いに行きます」と言っていました。今回の宮崎講演の依頼者は若いお母さんで、川崎まで来られて「明石さん、宮崎県日南市に来て、地域にエネルギーをください」とラブコール。即OKです。1年メール交換しながら、日南市主催の「子育てフェスティバル」の講師に（普通児の子育てにも共通の話を）。当日は市長や副市長も講演を聞き

に來られ、特に副市長（元県の障害福祉課長さん）は午後からの分科会にも参加し、市民も交えて意見交換を活発に行いました。

今回も同様ですが、日本各地で講演する機会を与えていただき感謝！旅大好きな徹之も土日開催には同行しています。講演時のアンケートの感想を、毎回主催者が送ってくださり、また個人的にもメールやお手紙やブログという形で感想をたくさん下さいます。その感想を読むたびに、徹之の存在が皆様に夢と勇気と元気をお渡ししていることを実感して、嬉しく思っております。では、日南市での講演の感想を、いただいたメールの中から下記に。

先日は自閉症児をもつ私たちにとって大変参考になり、また勇気づけられる内容の話をたくさん聞かせて頂きとても感動致しました。そして感謝しております。申し遅れましたが、私は日曜日（16日）に「日南市」で明石さんの講演を聴講し、その後の分科会では質問もさせて頂いた〇〇です。これまでいろいろな講演会会場で、私のように今後の希望を見出した方は数多いのだろうな～と勝手に想像しながら、帰りの「日南海岸」沿いを家内とあれこれ話しながら運転しておりました。明石さんの本は全て読ませて頂いていたので、今回こういう形で聴講できとてもラッキーでした。（本の内容だけでも感動しておりましたが、実際に御苦勞話を直接聞かせて頂き益々その想いが増幅しました。）しかし明石さんは本当に笑顔の素敵な優しいお母さんなのだ～と感じ、自分も少しは見習わなければいけないなあ～とつくづく思いました。今回講演会も分科会とも一番前の席を陣取り、細大漏らさず聞かせてもらおうと思っていましたが、あのビデオ「笑顔で街に暮らす」だけは思わず涙がでました。ハンディーがあってもそれを乗り越え前向きに生きている徹之君、そして彼を一生懸命に支えていこうとする明石さんの姿や周りの方々の方が存在が、あまりにもまぶしすぎたからです。そして人を動かすという事は容易ではありませんが、まず自分が率先して何かを調べたり行動したりしなければ何も変わらないという事を今回痛感しました。聴講していると自分がこれまでに息子に対して行ってきた愚行の数々が思い出され、恥ずかしく情けない複雑な気持ちにもなりましたが、とにかく笑顔をお忘れず前向きにやっっていこうという気持ちになれた事だけは確かです。本当に今回はいいきっかけになりましたし、良い出会いができた（これまた勝手に・・・）思っている次第です。くだらない内容で申し訳なかったですが、どうしても御礼が言いたくてメールさせて頂きました、本当にありがとうございました。

（追伸）今回は宮崎観光が少しはできたのですか？それと東国原知事に会えましたか？（きっとまた宮崎に来てくださいね）

日南市での講演後、徹之は「宮崎県庁に行きます」と宣言し、案内していただきました。あいにく知事はお留守でしたが、県庁内に観光客用に飾ってある知事の写真と一緒に、しっかりカメラに納まってきました。東国原知事は、浅野史郎さん（元宮城県知事）とテレビなどで対談されていたらしいので、

宮崎県庁玄関で知事のパネルと記念写真



浅野さん経由でサインいただけるかな？東国原知事の顔そっくりのお面を主催者の方からお土産にいただいて、徹之はかぶって喜んでおります。宮崎の講演も好評だったようで、早速講演会に来られた他の団体から講演依頼が来ましたので、次回の宮崎行きときは、県知事の登庁の際でもお会いできるとうれいすね。

議員会館野田先生のお部屋で

その他、12月は、岐阜県川辺町社会福祉協議会主催の講演会がありました。主催担当者の奥様（みすず会会長）が前年私の講演会を聞かれ、「地元でも」との要望でした。そういえば前年の岐阜での講演会で、野田聖子衆議院議員さんの後援者の有力者が来られており、昨年野田聖子さんとの出会いの場を突然作ってくださって、議員会館で発達障害の支援について1時間意見交換をしました。



川辺町の講演会は、町長さんはじめ行政の方々も一般参加者(!)として来られていて(講演後、講師控え室にお礼の挨拶に来られてビックリ!),多くの町民の参加がありました。「地域に生きる」とは地域に住所があることを言うのではなく「地域の人とのかかわり」ですから、地域の方々が理解されサポーターになってくれると嬉しいですね。夜は下呂温泉に泊まり(冬の花火を満喫)、翌日は初めて飛騨高山の観光をしました。高山からは今年8月に講演を頼まれましたので、また行きます(白川郷にも行きたいなあ~)。

那智の滝



11月は、自閉症協会和歌山県支部主催の講演会が新宮市であり、これまた「南紀講演&観光旅行」をしてきました。その前年に講演した会場は和歌山市でしたので、その時は関西空港に入り、南紀白浜空港から帰京という和歌山県東半分の旅程でした。今回は南紀白浜空港に入って、海岸線を特急ワイドビューで走り、新宮で講演して、勝浦(ホテル浦島)に1泊。翌日世界遺産の熊野古道大門坂や那智の滝を観光して、特急南紀で東上して、名古屋から新幹線という、徹之希望の鉄道の旅でした。自閉症協会和歌山県支部の大久保支部長さんがホームページに写真いっぱい講義&観光の記事を書いてくださって、いい記念になります。本当にありがとうございました。11月は、その他、自閉症協会の長野県支部(長野市)や栃木県支部(宇都宮市)にもお伺いしました。楽しく講演でき、また皆様と親交を暖めさせていただき、各支部長さんはじめ自閉症協会会員および関係者の皆様には大変お世話になりました。

また、11月は香川県高松市にも行きました。宮崎と同様、主催された小学生の子を持つ若いお母さん方の熱意が伝わる講演会でした。昨年は、本当に宮崎と高松のお母さん方とはメール交換を密にしましたね。おずおずと講演依頼され、「このような大きな講演会を企画するのは初めて」と緊張されていましたが、とてもとても立派な充実した講演会でした。

しかも高松は、私の友人たち（本人は「明石さんの追っかけ」と言われますが）が埼玉からも駆けつけて、「讃岐うどんツアー」なるものが計画され、懇親会も行き、若いお母さん方も含め香川県近郊の親や先生方も加わって、初対面同士でも同じ気持ちで集まっていますので、ネットワークが広がりました。主催された若いお母さんの感想の1部を載せます。

うどんツアー一団



昨日からの二日間、明石さんの貴重なお時間を私どもにちょうだいいたしまして、ありがとうございました。今日の講演会はもちろんですが、講演会以外のお時間も明石さんと一緒に過ごさせていただき、多くのことを学ばせていただいて、私自身本当に実りの多い二日間でした。みんなの先頭に立って道を切り開いていかれるかたは、本当にすごいパワーをお持ちだと感激するとともにそのパワーを私たちも少し分けていただけたような気がいたします。帰宅後、我が子に向ける自分自身の目線が少し変わったような気がします。子どもを地域に送り出すためにも母親の私が、もっと勉強をして賢くなり、強くなり、もっともって色々な経験を積み重ねていきたいと思います。明石さんのおかげで、とても前向きな気持ちになれました。

ありがとうございました。仲間作り、支援者作り、がんばります！（以下略）

神楽会館全国大会会場



11月は、その他、島根県邑南町にも行きました。広島空港からドライブして中国山地越えて島根県に入ります。途中で神楽など見学しました。全国大会が開かれるほど神楽が盛んです。邑南町の講演会は2度目。昨年は、町長さん等行政や議員さんや専門職対象の講演で、今回は親御さんや町民対象の講演会でした。翌日は教育委員会の方から、世界遺産になった「石見银山」など観光地に案内していただきました。

また、教育関係では南房総市での「安房地方特別支援教育振興大会」、その他筑波大学付属大塚特別支援学校などの教育関係や川崎市中部療育センターなど療育関係でも講演依頼がありました。特に川崎の若い親御さんたちから「元気をもらえた」と言う嬉しい感想をたく

さん頂き、私の方こそ元気をもらいました。地元の親御さん達が元気になって、子育てを楽しくされますように。川崎が「違ってOK、自閉症でOK」と言う街になりますように。

10月には奥平綾子（ハルヤンネ）さんの地元の篠山市での講演会。詳しくはハルヤンネさんがブログに書かれていますね。とても楽しかったです。地元の夜祭りやご実家訪問、そして新築の「おめめどう」もご案内していただきました。
おめめどう前→



他に、静岡市での「公立保育園研修会」も。「保育学研究」（保育学会発行）に拙文「子どもは子どもの中で育つ」が載ったからでしょうか、最近、保育園幼稚園関係からの講演が多くなりました。保育園や幼稚園は子どもが集団生活に入る、「地域に生きる」スタートの場です。他人に出会う場でもありますから、最初が肝心。親子に温かいまなざしで、正しい理解と適切な支援をして欲しいですね。徹之は保育園のおかげで現在があるといっても良いくらいです。19年は、横浜市でも公立保育園の研修会で、正規の保育士さん350人対象に（横浜開港記念館にて）、更に非常勤職員700人対象に（鶴見会館にて）講演いたしております。

また10月は、毎年頼まれている岡山での講演会も、今回は「障害児の子育て・きょうだい児の子育て」というテーマで5時間お話し、内容が新聞やテレビでも紹介されました。ところで主催者鳥羽さん親子のご紹介を自閉症協会機関誌「かがやき」に掲載予定です（私、企画編集委員で、各地の情報集めていますので、皆様どうぞよろしく）。さてさて、どの講演会もエピソード大ですが、紙面の都合上、割愛させていただきます。

さて、特記事項としては、10月5～7日に開催された「福祉のトップセミナーin 雲仙」のパネル討論会に登壇しました。コーディネーターは浅野史郎さん、パネリストに横浜「朋」の日浦美智江さん、神戸のプロップステーションの竹中ナミさん、そして徹之と私の4名。この内容は、読売新聞の10月17日の全国版に載りました。新聞記事の1部を添付しています（右に）。



討論会は、十分な打ち合わせも無く、ナントぶっつけ本番！私は徹之がどのような行動をとるか、ハラハラし通してでしたが、徹之の特性をご存知の浅野さんはユーモアたっぷりに進行され、徹之もマイペースで楽しんだようです。聞かれる時以外は、せっせと絵を描いていま

した。幼児期に、「こだわりはとりなさい。字や記号など、物にこだわるから人に関心がないのです！」と言われましたが、この「こだわり」はプラス思考すると、環境変化に適応する手助けになります。絵を描くことによって彼は気持ちを安定させています。さてパネル討論会の内容は、コロニー雲仙のホームページに詳しく載っていますので、見てください。その1部を下記にご紹介しましょう。

～南高愛隣会(コロニー雲仙)のホームページより～

「ブルースカイ」(就労継続支援事業A型)のお弁当をいただき、では一般の障がい者の就労はどうなっているかについて「この業界のセレブ」(浅野)を集めた夢トークが開かれました。

「夢トークを始めます」という開会の宣言をしたのは、コーディネーターの浅野史郎慶応大学教授ではなく、自



▲ 明石洋子さんと徹之さん

閉症と知的障がいを併発しながら川崎市の職員として勤務する明石徹之さん。水が好きで他人の家のトイレをイタズラしていた徹之さんに、お母さんの明石洋子さんが徹底的に風呂場掃除とトイレ掃除を教え込んだことが現在の職業につながったと語ります。(中略)

人は存在するだけで価値があり、それを否定する社会であるなら、その社会を変えなくてはならない。その「同じ目標に向けて別の地点からの

ぼっている」(竹中)4人の方によるお話でした。最後に、今は仕事から結婚という夢に向けてがんばっている徹之さんの当法人の結婚推進室「ぶーけ」への登録宣言も飛び出し、再び「夢トークを終わります」という徹之さんの締め言葉をもって夢トークは幕を閉じました。

…以上ホームページより一部を抜粋。

ウエルカム・ナイトセッションでも、徹之は皆様と大好きなお酒を酌み交わして、大満足。特に浅野さんとは、さしつさされつで、お酒もビールも・・・(ハイポーズ)



徹之は、宮崎と同様、この雲仙行きもとても楽しみにしていました。「博多から特急で諫早にいきます」と私が伝えた時、「徹之は、国立諫早青少年自然の家に行きたいです」を連発。ここは、佐賀の北川副小学校時代クラスメート達と合宿をしたところなのです。諫早駅について早速訪問。徹之はすぐトイレ探検とお風呂場、さらに「お風呂での約束」の文字も確認していましたね。ゴミ箱や泊まった部屋の確認もして大満足。「明石徹之の歴史」といって、過去を確認しています。その後見学した雲仙コロニーはすごい！入所者は居なくて皆ケア(グループ)ホームで生活しています。近くには地域生活や就労を支援する各種サービスがそろっていました。特に「ぶ〜け」という結婚推進室にはビックリ！徹之は早速登録しましたので、今年はお嫁さんが見つかるといいなあ〜。



国立諫早青少年自然の家 浴室で

10月13日(土)は、あおぞら共生会と川崎市自閉症児者親の会共催で、「NHKハートフォーラム in 川崎」を開催しました。テーマは、「障害のある人もない人もともに生きる街に〜自閉症等発達障害の理解と支援を願って〜」としました。企画と運営を一手に引き受け、親の会と、あおぞら共生会の皆様のご協力の下、450名の方々が来てくださって、感謝です。詳しくは、冒頭に掲示しました親の会及びあおぞら共生会のホームページを訪問してください。10時から17時までの長丁場でしたが、時間が足りないと思えるくらいの充実したフォーラムになり、皆様のご協力感謝いたしております。講演内容等を書いています親の会会報「くさぶえ」88号をお読みにになりたい方は、あおぞら共生会までご連絡ください。メールに添付して原稿をお送りいたします。 sfn-aozora.126@minos.ocn.ne.jp

この講演会のお知らせを兼ねて、かわさきFM(9月28日)「市民スタジオからこんにちは」(11時10分〜11時50分)に出演しました。40分間、自閉症等発達障害について、徹之の自立、自立支援法等制度の話、今後の夢と抱負などの質問にお答えしました。私のリクエスト曲として、「プサン港へ帰れ」(韓国の歌手)と「時代」(中島みゆき)を選びました。そのエピソードは機会があるときに。では今回の「明石通信」はこの辺でおわります。

〜ご報告とお礼〜

衆議院議員で発達障害者支援法(議員立法)の立役者の福島豊先生のご推薦を頂き(ビックリ!)、このたび思いがけなく「第4回ヘルシー・ソサエティ賞」(日野原重明先生が委員長; 受賞者4名)をいただくことになりました(ボランティア部門)。授賞式と祝宴が、2月26日帝国ホテルで開催されます。いただくのは私ですが、主人公の徹之と家族、及び支えてくださった支援者のおかげです。皆様あつての受賞と、心より感謝しております。徹之ともども出席してまいります。ご支援下さった皆様、本当にありがとうございました。

